岐許延牟登岐波、和賀那斗波佐泥、

〔萬葉集六雜歌〕神龜元年甲子冬十月五日、幸○聖武于紀伊國時、山部宿禰赤人作歌一首幷短歌、

若浦爾、鹽滿來者、潟乎無美、葦邊乎指天、多頭鳴渡、

右年月不記、但偁從駕玉津島也、因今檢注行幸年月以載之焉、

〔萬葉集三雜歌〕高市連黑人羈旅歌八首

櫻田部、鶴鳴渡、年魚市方、鹽干二家良進、鶴鳴渡、

礒前、搖手回行者、近江海、八十之湊爾、鵠佐波二鳴、

〔續日本後紀十仁明〕嘉祥二年三月庚辰、興福寺大法師等、爲奉賀天皇寶算滿于四十、奉造聖像卌軀、○中略長歌詞曰、○中澤鶴、命乎長美、濱爾出氐、歡舞天、滿潮乃、無斷時久、萬代爾、皇遠鎭下略倍利、○

〔催馬樂〕席田

むしろ田のや、むしろ田の、いつぬき川にや、すむつるの、いつぬき川にや、すむつるの、

すむつるのや、すむつるの、ちとせをかねてぞ、あそびあへる、よろづ代かねてぞ、あそびあへる、

〔古今和歌集十雜七〕題しらず　讀人しらず

なにはがた汐みちくらしあま衣たみの、島にたづ鳴きわたる

〔躬恒集〕朱雀院の鶴のはかなくなるを

蘆たづのよはひはかなく成にけりけふや千年の限なるらん

〔枕草子三〕鳥は　つるはこちたきさまなれども、なくこゑ雲ゐまできこゆらん、いとめでたし、

〔西遊記二〕渡り鶴

琉球近き島に屋久島といふ島、大なる島にて、むかしは日本の外なる一ケ國として、國史などにも、屋久國人來朝するなどゝ見えたり、此島に八重嶽とて、高さ十三里の高山あり、○中略すべて南